

# 感動いっぱい アメリカ体験記

市の平成23年度青少年海外派遣事業で、  
3月23日から30日までの8日間、  
アメリカ・サウスレイク市などを訪れた  
市内の中学・高校生10人。  
彼らは、遠く異国の地で何を感じ、何を学んだのか。  
寄せられた感想を紹介します。

**アメリカ人の明るさ**  
猪股 奈生(登米高3年・登米)

研修を通して、日本では経験できない文化や生活を学ぶことができました。アメリカ人の積極性、明るさ、優しさがすてきだと思いました。これからは英語の学習に力を入れ、たくさんの国際交流をして、視野を広げたいです。

**相手を尊重する国**  
三浦 琴(佐沼高3年・登米)

今回の研修を通じて、自由でありながら相手を尊重するアメリカという国の素晴らしさを感じました。同時に、日本の治安がいかに良いかなど、海外に行かなければできないような、非常に多くのことを考えることができました。

**接しやすい人が多い**  
菅原 詩織(上沼高3年・東和)

アメリカに行く前とその後の印象は変わりませんでした。とても接しやすい人が多かったです。休日は家においてこもりがちになるので、良い刺激を受けたと感じています。今回のホームステイで自分が言いたいことを上手に伝えられるか不安だったので、次にアメリカに行くときに自信が持てるようにがんばります。

**身振り手振りで**  
村上 賢則(中田中3年・東和)

この海外派遣では、これまでの授業で習った英語では会話が難しく、身振り手振り混じりの英単語を使った会話でした。この体験が英会話への興味に変わり、これからの目標になりました。

**リスニングの大切さ**  
千葉 有稀(登米中3年・登米)

少しでも会話の内容を理解したいと思いましたが、ほとんど聞き取ることができませんでした。普段から学校で行っているリスニングテストの大切さがわかりました。これからは、リスニングの勉強

**もつと英語を勉強**  
渡辺 美月(石巻高2年・豊里)

わたしはこの研修で、もつと英語を勉強しようという気になりました。ホームステイでホストファミリーと一緒に生活して、もつと英語を話せるようになり、たくさん会話をしたいと思ったからです。またアメリカに行って、ホストファミリーに会いたいです。

**アメリカに行く前とその後の印象は変わりませんでした。**  
とても接しやすい人が多かったです。休日は家においてこもりがちになるので、良い刺激を受けたと感じています。今回のホームステイで自分が言いたいことを上手に伝えられるか不安だったので、次にアメリカに行くときに自信が持てるようにがんばります。

**視野が広がった**  
須藤 結菜(佐沼高3年・中田)

今回の研修では、ホストファミリーとの出会い、たくさんの方との交流によって自分の視野を大きく広げることができました。ホームステイを通じて日本とアメリカの文化や生活の違いなどを実感できました。とても充実した研修になりました。

**国際的に通じる人に**  
秀 健太郎(佐沼中3年・追分)

たくさんの人たちのおかげで、充実したホームステイを実現することができました。心配していた英会話も単語や熟語、身振りなどで通じたことがうれしかったです。もつと勉強して、国際的に通じる人間になりたいと思っています。

**自分に自信が付いた**  
阿部 まり亜(佐沼高2年・南五)

わたしは、以前からアメリカへ行くのが夢だったので、今回その夢が実現し、とても感謝しています。言葉が不自由な中で、現地の人と通じあえたときは、とても喜びを感じることができました。自分にも自信が付き、視野も広がりました。

**全員が、もう一度アメリカへ**  
青少年海外派遣事業【アメリカ】  
佐々木 清公 団長

アメリカから帰ってきて、みんな良い意味で人懐っこくなったと感じています。アメリカ人が持つ気質に触れた影響でしょうか。今回のアメリカ研修を経験し、英語を学べる学校に行きたいと言う子、英語に関わる仕事に就きたいと言う子もいます。また、現地で老人ホームを見学したことで、福祉の仕事に興味を持った子も。みんなの成長を実感しています。今回の経験が、子どもたちにとって何かのきっかけになってくれることを願っています。帰国して何よりうれしかったのは、全員がもう一度アメリカに行きたいと言ってくれたことです。

**気持ちに通じる**  
大場 千夏(登米高3年・追分)

この研修を通して、言葉が通じなくても、お互いに理解しようとする気持ちがあれば気持ちに通じるということを知りました。また、音楽は歌手名や曲名を言えば通じ合えるので、素晴らしいコミュニケーションツールだと思いました。

**登米市青少年海外派遣事業**  
時代を担う国際感覚豊かな青少年を育成することを目的に、市が毎年実施している。平成23年度は、オーストラリアとアメリカの2カ国に、市内の中学・高校生を派遣した(中国コースは中止)。オーストラリアコースは、11月2日から9日までの日程で5人の中学生を派遣。アメリカコースは、3月23日から30日までの日程で、中学生3人、高校生7人の10人を派遣した。アメリカコースの団長として、市国際化推進指導員の佐々木清公氏が随行した。アメリカコースでは、サウスレイク市やサンフランシスコ市などを訪れ、サウスレイク市では一般家庭に4泊5日のホームステイを体験した。サンフランシスコ市では、ゴールデンゲートブリッジやアルカトラズ島などを見学した。

今回の研修では、ホストファミリーとの出会い、たくさんの方との交流によって自分の視野を大きく広げることができました。ホームステイを通じて日本とアメリカの文化や生活の違いなどを実感できました。とても充実した研修になりました。

今回の研修では、ホストファミリーとの出会い、たくさんの方との交流によって自分の視野を大きく広げることができました。ホームステイを通じて日本とアメリカの文化や生活の違いなどを実感できました。とても充実した研修になりました。



※6ページに平成24年度青少年海外派遣事業「ジュニア大使コース」派遣団員募集のお知らせを掲載



アメリカで絆を強めた10人の仲間